nations in West African Lentibulariaceae and Gentianaceae. Taxon **12**: 293–294. ——, 1964. The genus *Utricularia* L. (Lentibulariaceae) in Africa (South of the Sahara) and Madagascar. Kew Bull. **18**: 1–245. Thanikaimoni, G., 1966. Pollen morphology of the genus *Utricularia*. Pollen et Spores **8**: 265–284. Zagwijn, W. H., 1960. Aspects of the Pliocene and early Pleistocene vegetation in the Netherlands. Mededelingen Geol. Stichting, Ser. C, III, 1, No. **5**: 1–78.

* * * *

邦産タヌキモ科，タヌキモ属に属する 9 種，2 亜種，2 品種と，ムシトリスミレ属の 2 種を花粉形態学的に検討した。その結果，タヌキモ属は三溝孔粒型の花粉を持つ群と，多溝孔粒型の群に分類され，De Candolle (1844) による節の分類と一致した。花粉による同定上の便宜を考え，検索表を作成した。

山形県庄内地方の沖積世堆積物から発見されたタヌキモ属の化石花粉は，その諸特徴から，タヌキモ (*U. vulgaris*) のものに一番類似点が多かった。この化石花粉，及びタヌキモ節の現生種の花粉に見られる諸形質を検討した結果，次のような系統関係が暗示された。即ち，タヌキモ→フサタヌキモ→ヒメタヌキモ→ノタヌキモ→イトタヌキモ→コタヌキモ。

ムシトリスミレ属の花粉は 2 種共多溝孔粒型であるが，外膜の模様は，ムシトリスミレでは微細な網目紋，コウシンソウは疣状紋で，両者間に明瞭な形質上の差異が認められた。

□石川茂雄： **津軽西海岸の植物** (青森県の自然 1) pp. 103 (内 Photo 76 pp.) 津軽書房，弘前 ¥3,000, 1975 年 5 月。このような局所的な表題で自然を描写した写真集が，地方の出版社から発行されたことは珍らしいが，これは自然の破壊がそれほどにさしせまって来ていることを示す一つの指標であるといえよう。著者は弘前大学理学部教授，日本海に面した津軽平野の瀕海の地，屛風山とそこに抱かれた数多くの湖沼と原野に自然を見出だし，それをひろく紹介しようとした。急速な破壊が進むにつれ，とにかく最初に出版することを余儀なくされて日の目をみたのであると著者はしるす。ページのいたるところに著者の愛する茫漠とした風物が写し出されていて，日本にもこのような処があったかと思う程である。間々にはそれを構成する植物の個有の姿が美しく収められている。解説編はこの屛風山の植生を多くの湖沼の地図を加えて説明している。東北の一隅にあるこの自然環境に注意を払われんことを希望するのは私一人ではないであろう。 (前川文夫)